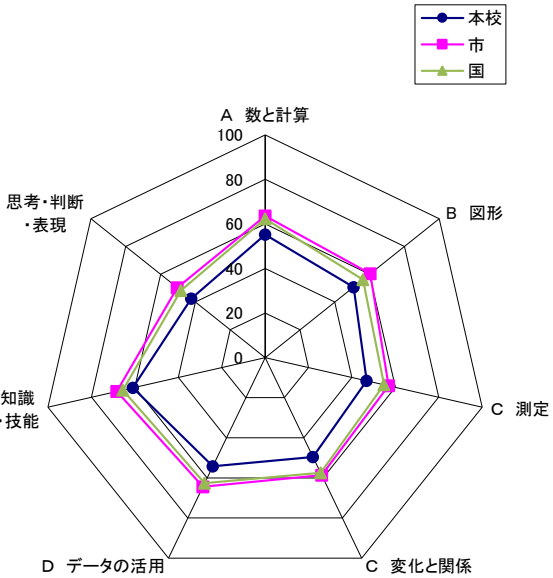


宇都宮市立桜小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	55.2	63.6	62.3
	B 図形	50.8	60.4	56.2
	C 測定	46.8	56.9	54.8
	C 変化と関係	49.5	58.6	57.5
	D データの活用	54.2	64.4	62.6
観点	知識・技能	60.9	68.3	65.5
	思考・判断・表現	42.4	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○数直線上に示された数を分数で書く問題では、国の平均正答率を6.9ポイント上回った。 ●分数の加法について、共通する単位分数を見出し、加法と被加法が、共通する単位分数の幾つ分かを問う問題では、国の平均正答率を13.3ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基礎的な計算については、スマイルネクストドリルを活用しながら学校や家庭でのドリル学習に繰り返し取り組むようにし、確実に身に付けられるようにする。 ・自分の考えを深められるように、ペア活動やグループ活動を多く取り入れ、自分の考えを説明したり、友達の考えと比較したりする機会を増やすようにする。 ・朝の学習の時間や学習がんばり週間に、小テストやステップアップテストを実施し、計算技能の定着を確認しながら指導を行う。
B 図形	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述する問題では、国の平均正答率を1.7ポイント上回った。 ●平行四辺形の性質を基にコンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかを問う問題では、国の平均正答率を13.1ポイント下回った。	・ICTを活用し、図形について既習事項を確認する機会を設けるとともに、立体の性質や構成の仕方について視覚的に捉えさせ、理解を深めることができるよう指導する。 ・図形を実際に描いたり、様々な角度から観察したりするなど図形に触れる機会を増やす。
C 測定	平均正答率は、県や国の平均より低い。 ●はかりの目盛りを読む問題では、国の平均正答率を2.8ポイント下回った。	・目盛りの読み方の基本を確認し、段階的にステップを踏んで練習させる。数直線を用いて一目盛りの量を視覚的に捉えさせたり、具体的な重さを図る機会を増やしたりする。 ・スマイルネクストドリルを活用し、児童の習熟度に合わせて重さに関する問題に取り組むようにしていく。
C 変化と関係	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前」の量の何倍になっているかを表すことができるかどうかを問う問題では、国の平均正答率を2.2ポイント下回った。 ●伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な事柄を判断して求め方を書く問題では、国の平均正答率を13.2ポイント下回った。	・伴って変わる二つの量を表に整理することで視覚的に変化を捉えさせ、その規則性を見付けられるよう、繰り返し取り組ませる。 ・生活の中で、伴って変わる量を意識させることで、算数への興味や関心を高めるようにする。
D データの活用	平均正答率は、市や国の平均より低い。 ○目的に応じて適切なグラフを選択して、出荷量の増減を判断し、その理由を書く問題では、国の平均正答率を1.3ポイント上回った。 ●棒グラフから項目間の関係を読み取る問題では、国の平均正答率を20.6ポイント下回った。	・円グラフや表、折れ線グラフの基本的な読み取りについては、算数だけでなく社会や理科など他教科においてもグラフや表に触れる機会を意図的に設定する。また、数値を読み取ったり、変化の傾向を捉えたりしながら学習課題に取り組み、グラフを読み取りデータを活用する力を高めていく。